

二〇一九年八月二日

かなかなや山の空気に変はる道  
目玉見え全身透ける目高の子

うつぎ

素 秀

二〇一九年八月一日

反響す鍾乳洞の声涼し  
骨切りの手際も見せて鱧料理  
風涼し千本鳥居吹き抜けて

素 秀

はく子

さつき

二〇一九年七月三二日

梅花藻や水の匂へる湖畔駅

みづき

熊蟬の腹震はせて絶叫す

せいじ

筆置けばわつと高鳴く蟬時雨

よう子

縦横に山の風入れ夏館

うつぎ

水平線遙かに見えて岬涼し

さつき

老翁の仙人髭やパナマ帽

さつき

夫婦滝連理をなして水激つ

たか子

二〇一九年七月三〇日

所在なき風鈴の舌風吹かず

ぼんこ

大吉の浮かぶ納涼水みくじ

さつき

素足よし母手作りの布草履

うつぎ

楼門を射抜くごとくに鬼やんま

さつき

日の上り蟬時雨いまソプラノに

満 天

二〇一九年七月二九日

返事すもとんちんかんや昼寝覚  
足垂らす堂縁の下蟻地獄

明日香

うつぎ

二〇一九年七月二八日

古堂の蟻地獄にも参拝す  
梅雨雲の切れて日の射す主峰かな  
降りたつや否や全島蟬時雨

うつぎ

隆 松

さつき

湖涼し縮緬波を湛えけり

たか子

熊笹の隠さふ道も登山道

せいじ

二〇一九年七月二七日

島のごと浮く円墳や青田中

明日香

大堰堤一文字引く夏の山

ぼんこ

山の上に半分覗く遠火花

はく子

千年の社鎮めて夏木立

菜 々

毎日句会みのる選・二〇一九年八月四日